

## [特別展に寄せて]

## 秋田蘭画から西洋近代絵画へ

江戸時代の安永2年(1773)に秋田藩で発足した秋田蘭画(秋田のオランダ絵という意味)は、しばしば特異な構図の作品を生みしました。それは前景に花鳥や樹木などを極端に拡大して描き、遠景に西洋銅版画風の湖沼などを配する構図の作品で、その一例として挿図に示した小田野直武筆「鷹図」があげられます。この構図は漢画の花鳥図を基本とし、それに透視法的な奥行き表現を加えるため案出されたものと考えられます。すなわち、秋田の洋風画家たちは在来の東洋画に欠けている水平方向の遠近表現を意図して、この種の構図を多く採用したのでしょう。写実をめざす彼らの意図は、十分に成功しているとはいいがたいのですが、この種の構図により、秋田蘭画の作品には一種の取りあわせのおもしろさ、あるいは意外性の効果ともいえるべきものが生まれました。

秋田蘭画を受けついで江戸の司馬江漢(1747~1818)は、秋田の洋風画家よりも西洋画法に習熟していたので、漢画の束縛をかなり脱した作品を描くことができました。そこで、彼はこの“近像型”とも

呼ぶべき構図を余り多く用いていません。しかし、ときには油絵の「寒柳水禽図」のような作品において、秋田蘭画の余風を示すことがあります。

江漢をついで亜欧堂田善(1748~1822)となると、「溜池図」のような近像型構図は、唯一と言ってもよい例外となります。田善は秋田蘭画はもとより、司馬江漢よりもはるかに西洋画法に熟達していたので、遠近表現を意図して、近像型構図をとることがありません。「溜池図」の場合、田善は江戸の溜池にあったという榎の巨木の大きさを表すために、あえて秋田蘭画に多い近像型構図を採用したのもと思われる。ここで注意すべきことは、もともと客観表現のために誕生したこの種の構図が、芸術的效果のために用いられていることです。すなわち、この種の構図は田善に至って、質的変容をとげているように思われます。

近像型構図を芸術的效果のために採用し、もっともめざましい成果をあげたのは、幕末の風景版画家、葛飾北斎(1760~1849)と安藤広重(1797~1858)です。北斎の富嶽三十六景のうちにある「神奈川沖

浪裏」、「甲州三島越」(挿図)、および広重の名所江戸百景に属する「堀切の花菖蒲」「亀戸梅屋舗」(挿図)などはその典型的な例でしょう。

この種の構図はこれまで北斎や広重の独創と考えられてきました。しかし、秋田蘭画から司馬江漢へ、亜欧堂田善に至るその流れがある以上、やはりそれは江戸後期の洋風画の刺激により生まれたとみるべきでしょう。

さて、日本の浮世絵版画が、19世紀後半のヨーロッパ絵画に大きな影響を及ぼしたことは、よく知られています。その影響は非常にひろい範囲にわたっていますが、構図の面のみに限定して考えて見ましょう。それについては故山田智三郎氏の下記のような意見があります(『浮世絵と印象派』近代美術18・昭和48年・至文堂)。

西洋の伝統的絵画は「自然の風景を、あるいはある情景を偶然ある視点から見て、その美しさ、あるいはおもしろさに打たれて、その偶然の視点から見たままに描こうということは考えられなかった。まして、ある情景をながめ、画家の眼に美しいと映じた部分のみ、あるいは印象の強い部分のみを切りとって画面に移し、そのため対象の一部が画面から切り落とされるようなことは考えられもしなかった。こういう構図の上での伝統の拘束は、個性の強かったターナーとゴヤを除き、写実を標榜したクールベにさえつづいている。」

山田氏の言われるこのような西洋絵画の伝統を思うとき、19世紀後半に描かれたホイッスラーの「バターシーの古橋・青と金のノクターン図」ゴッホの「日本趣味・花咲く梅の木図」、「種まく人図」(挿図)、およびモネの「睡蓮の池と橋」、「エプト河畔のポプラ並木図」のような作品は特異な地位を占めると言うことができます。これらの作品は主対象を前景に拡大表現したり、あるいはその一部が画面から切り落とされるような表現をとっています。こういう西洋絵画としては異例な構図は、北斎や広重の版画の感化なしには生まれなかったと考えられています。

しかし、もともと東洋画個有的のものであった近像型構図に西洋画の視点を導入し、それを北斎や広重に伝え、西洋の画家の受容しやすいかたちに変えたのは、秋田蘭画にはじまる江戸時代後期の洋風画でした。西洋から鎖国日本にさしてきた光は、いろいろに屈折しながら、ふたたび西洋を照らしたのでした。

北斎や広重らの浮世絵版画が西洋近代絵画に大きな影響を与えたことについては、古くから指摘されてきました。その中でも彼らの作品に見る近像型構図の西洋への影響は注目すべきものがあります。そのような構図が実は北斎・広重以前の江戸時代後期の洋風画に源流を持つことを、ここに指摘したまでです。(成瀬不二雄)

鷹図 小田野直武筆



甲州三島越(富嶽三十六景) 葛飾北斎筆



亀戸梅屋舗 安藤広重筆



種まく人 ゴッホ作

